

記者メモ



福島県いわき市の施設で、集まった12人の母親がTシャツ姿で音楽に合わせて踊っている。そばには母親に近づこうとよちよち歩きをする子どもたち。その様子を助産師たちが優しく見守っていた。

市内で子育て支援の活動を行うNPO法人「Community with 助産師」が月2回開いている「ママ&ベビー体操」は、すぐに予約で埋まるほどの人気だ。1歳の長男と

参加する友定みゆきさん(30)は「みんなにも会えるし、一時でも震災や原発事故を忘れられる大切な時間」と汗をふいた。

NPO理事長の草野祐香利さん(47)は、震災直

後の昨年3月、市内のアパートで生後10日の赤ちゃんを抱えた母親に面会した。部屋は日中も雨戸が閉め切られ、レトルト食品が山積み状態。母親は「不安なので家に籠もっている」とおびえて

いた。「育児のことで誰にも相談できずに悩む母親はまだいる」。草野さんらは各家庭を回って自分たちの活動の内容を紹介し、メールや電話での「よろず相談」に応じた。

お母さんたちの太陽に

震災で休止した体操教室も2か月後には再開した。母と子がリフレッシュできる場を提供するために急いで準備した。「お母さんたちの太陽になろう」。スタッフの助産師たちはいつも、そう心がけている。

(福島支局 小日向邦夫)